

校長室より

■一人ひとりの大切な居場所として～碧雲祭を振り返って～

第8回碧雲祭が行われました。

10月19日(木)のスポーツ祭では、午前の種目でも午後の種目でも参加したみなさんがとても楽しそうでした。閉会式でみなさんの表情がとても和やかで爽やかだったのが印象的でした。やっぱりみんな汗を流すと気持ちいいですね。また、当日体育館に掲示されていた「碧雲の樹」に、宍道高校のいいところが葉っぱに書き込まれていました。葉の一つひとつに「そうだなあ」と気づかされました。

10月21日(土)には文化祭が賑やかに開催されました。いつ降り出してもおかしくはない曇り空でしたが、みなさんの熱意が通じたのか、開催時間中は何とか雨も降らず、無事に開催することができました。

文化祭開会式で、生徒会から碧雲祭スローガン「みんなの笑顔が輝く日!～This Is Where We Are～」の発表があり、次の説明がありました。

「このスローガンに込められた思いは、定時制・通信制の枠を超え、みんなで協力し、今日一日、キラキラとした笑顔がたくさんこぼれますように!そしてこの宍道高校そのものが、私たち、一人ひとりの大切な居場所である、This Is Where We Areという思いをのせて、今年度のテーマとしました。」

続いて劇団Yプロジェクトによる演劇「ケータイ・クローン きみはひとりじゃない2017」が上演されました。現実の社会に存在する重いテーマでした。が、私の上演後に込み上げてきたものは決して重いものではなく、それは安堵感や期待感のような感情でした。少し時間がたった今改めて振り返ると、おそらくそれはこの作品を通して、心通じあう人と人との絆の確かさや可能性を強く感じたからだと思います。ご覧になったみなさんはどのような感想を持たれたでしょうか。

午後は、展示や体験・ステージ発表・模擬店・ゲームコーナー・保護者による出店など、楽しい催しが多くあり、展示をみてもステージをみても一芸に秀でた生徒さんが数多くいて、驚きました。普段はあまり見ることができない宍道高校生の素敵な姿や笑顔をたくさん見ることができました。

恥ずかしながら私も教員バンドの仲間に入れていただき、楽しませていただきました。始まる前の緊張感や終わった後のホッとした感覚も、お祭りに集ってこそ得られる実感です。良き思い出となりました。

閉会式で陶山教頭先生が次のようにおっしゃっていました。「学校は楽しいところではなく、楽しむところです。」ホントそうですね。

これからも宍道高校が生徒一人ひとりの大切な居場所であり続けられるよう、みんなの思いを重ねあって、学校生活を楽しみましょう。

最後になりましたが、碧雲祭を企画・運営した生徒会のみなさん、意欲的に参加してくれた生徒のみなさん、ご支援ご協力いただいた保護者のみなさま、そして教職員のみなさまにこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

編 | 集 | 後 | 記

職員室へ向かう外階段にこここのところカメムシの大群が…。皆さんはカメムシにいろいろな呼び方があることをご存知ですか?ここ出雲地方では「オジョロムシ」「ハットウジ」と呼ばれることもあるようです。西部では「ホウムシ」だそうです。皆さん知っていましたか?ある地方では「ヘクサムシ」と呼ばれるとか…。確かにそんな臭いがするようないないような。

今年はカメムシの量が多いとか。また大雪になるのでしょうか!?

2017年もあと一月となりました。そろそろ今年一年を振り返ってみてはいかがでしょう?